

# 第246回 日本循環器学会関東甲信越地方会

**日 時** 平成29年12月2日(土)  
**会 場** ステーションコンファレンス東京(千代田区)  
第Ⅰ会場 (605 A+B+C)  
第Ⅱ会場 (602 A+B)  
第Ⅲ会場 (602 C+D)  
PCセンター (604)  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー 6階  
TEL 03-6888-8080

**会 長** 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 循環制御内科学  
平尾 見三

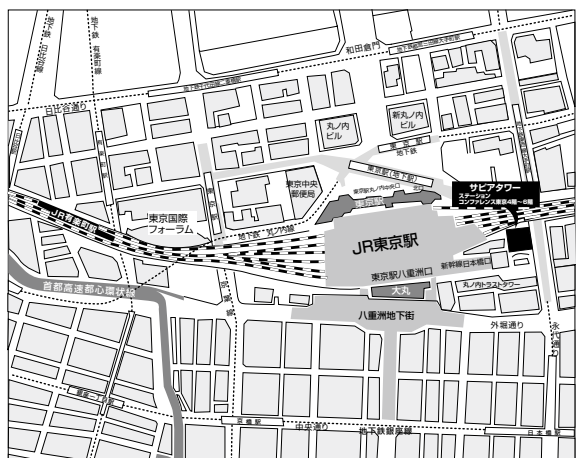
## 御 案 内

- 参加費:** 会員 3,000円  
初期・後期研修医、コメディカル 1,000円  
学生 無料  
※当日、受付にて学生証をご提示下さい。
  - 受付時間:** 参加受付 8:30~17:40  
PCセンター 8:30~16:40
  - 一般演題発表時間:** 口演5分、討論2分
  - Award:** 若手循環器専門医の育成を目的として、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各Award最優秀賞1名、優秀賞2名を顕彰いたします。  
選考委員による第一次書類審査による選考後、地方会当日口述発表による第二次審査で審査委員から発表者に対し質疑応答を行います。(口演6分、討論4分)  
会場: 第Ⅰ会場  
(Clinical Research Award・Case Report Award)  
第Ⅱ会場  
(Resident Award)  
時間: 第Ⅰ会場: 16:00~17:40  
第Ⅱ会場: 16:50~17:40  
なお、以下の項目が審査の対象となります。
    - 正しい医学用語の使用
    - 発表時間の厳守と態度
    - 考察
    - 質問に対する応答
    - 循環器臨床に対する貢献度表彰式は評議員会終了後に評議員懇親会で行います。
  - その他:** 会場内ではPHSや携帯電話のスイッチはお切り下さい。  
また、講演中の写真撮影はご遠慮下さい。
- 託児サービスのご案内:**  
日本循環器学会関東甲信越支部では、地方会へのご参加の利便を図るため託児サービスを行っております。  
**評議員会:** 地方会終了後、第Ⅰ会場で行います。  
(懇親会は第Ⅲ会場にて行います。)

次回地方会: 第247回地方会は次の通りです。

日時: 平成30年2月10日(土)  
会場: ステーションコンファレンス東京5階  
会長: 福田 恵一  
(慶應義塾大学医学部 循環器内科)

## ステーションコンファレンス東京 案内図



### 交通のご案内

#### 【JR線・東京メトロ】

「東京駅」日本橋口(新幹線専用改札口) 徒歩1分  
八重洲北口改札口 徒歩2分  
東京メトロ東西線「大手町駅」B7出口から直結

## 【発表者の方へ】

発表はすべてPCプレゼンテーションとなりますので、以下の要領をご確認の上、ご発表の30分前までにPCセンターへお越し下さい。

### ●Windows でデータを作成された場合：データをお持ち下さい

- CD-RまたはUSBフラッシュメモリに保存してご提出下さい。CD-Rについてはハイブリッドフォーマットのみと致します。  
(DVD・FD・MO等は受付できませんのでご注意下さい。)
- OSはWindows 10、アプリケーションはPowerPoint 2007以降に対応しております。  
それ以外のソフトや動画が多い場合は、ご自身のPCをお持ち下さい。
- フォントはOS (Windows 10) 標準のもののみご用意致します。  
日本語：MSゴシック・MSPゴシック・MS明朝・MSP明朝  
英語：Times New Roman・Arial・Arial Black・Arial Narrow・Century  
Century Gothic・Courier・Courier New・Georgia  
これ以外のフォントを使用した場合、文字・段落のずれ・文字化け・表示されない等のトラブルが発生する可能性があります。
- 液晶プロジェクターの解像度はXGA (1,024×768dpi) まで対応しております。
- ご用意いただくCD-RまたはUSBフラッシュメモリのウイルスチェックを事前に行って下さい。
- ご発表開始時刻の30分前までにPCセンターでご発表データを試写確認のうえ、ご提出下さい。  
午前の最初のセッションの時間帯ではPCセンターが混雑しますので、お早めにお越し下さい。
- ご発表データは事務局で責任を持って消去致します。

### ●Macintoshでデータを作成された場合：ご自身のPCをご持参下さい

- 必ずACアダプターをご用意下さい。



D-sub15ピン (ミニ)



付属外部出力ケーブル 例

- 動画もご利用いただけますが、再生できることをPCセンターで必ずご確認下さい。
- 利用機種・OS・アプリケーションに制限はありませんが、D-sub 15ピンによるモニター出力が必要です。ご持参いただくPCからD-sub 15ピンへの変換コネクタが必要な場合には、各自でご用意下さい。 D-sub 15ピン以外の接続はお受けできませんので予めご了承下さい。
- ご講演時は演台にあるマウス又はキーボードにてスライドの操作をお願いいたします。操作機器の接続にUSBポートを使用するため、USBポートがないPCをお持ちの場合は変換コネクタをご用意ください。(例：MacBook Type-CからUSB変換)
- スクリーンセーバー、ウイルスチェックならびに省電力設定は予め解除しておいて下さい。
- 電源ケーブルを必ずご持参下さい。バッテリーでのご使用はトラブルの原因となります。
- 発表開始時刻の30分前までに、PCセンターで試写を行って下さい。PCセンターならびにPCオペレーション席ではデータの修正・変更は行えません。
- 念のため発表用データのバックアップを必ずご持参下さい。
- ご持参頂くPCに保存されている貴重なデータの損失を避けるため、必ず事前にデータのバックアップを取っておいて下さい。
- PCをお預かり時にお渡しする半券はPC返却時に必要ですので大切に保管下さい。
- 発表者ツールの機能はご使用にはなりません。
- ご講演時に原稿が必要な場合は、予め印刷してご持参ください。

## 【託児室ご利用について】

託児時間：2017年12月2日（土） 8：30 ～ 18：00

託児人数：10名

対象年齢：3ヶ月～小学校3年生まで

委託先：(株) アルファコーポレーション

(ACSA：全国保育サービス協会正会員)

アルファコーポレーションの首都圏全施設どこでもご利用いただけます。下記URLから最寄りの託児施設をご確認頂けます。各施設の詳細はご希望の施設名をクリックしご確認ください。

URL：[http://www.alpha-co.com/ks\\_index.jsp](http://www.alpha-co.com/ks_index.jsp)



託児料：予約頂いた場合、上記設定時間中の料金は事務局が負担致します。

※ただしオムツなどの実費及び上記時間外の延長料金は除きます。

申込み方法：以下の項目をメールにお書き添えの上、アルファコーポレーションまで直接お申込み下さい。

メールアドレス：yoyaku@alpha-co.com

タイトル「第246回 日本循環器学会関東甲信越地方会 託児室予約」

- 1) 学会会員番号
- 2) 保護者氏名・所属・連絡先（携帯電話番号を含む）
- 3) 子どもの人数・年齢・名前・性別
- 4) 託児希望日時
- 5) 希望のキッズスクウェア
- 6) 託児上の注意点（アレルギー等）

※ご質問時のメールタイトルは

「第246回 日本循環器学会関東甲信越地方会 託児室予約+(ご用件)」とお書き下さい。

※電話でのお申込みも可能です。

TEL 03-5797-7121（平日9：30～18：00）

お申込み後、ご予約確認メールと共に 利用規約・申込書を返信致します。

申込書は記入、押印の上、当日託児室までお持ち下さい。

申込締切：2017年11月29日（水）

ただし定員になり次第締め切らせて頂きますので、お早めにお申込み下さい。

不測の事故に対応するために、シッター会社が保険に加入しており、保険適用範囲で補償いたします。

また日本循環器学会では、事故の責任は負わないことをご了承下さいますようお願い申し上げます。

## 第246回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日時：平成29年12月2日（土）

会場：ステーションコンファレンス東京6階

会長：東京医科歯科大学 循環器内科 平尾 見三

	第Ⅰ会場		第Ⅱ会場		第Ⅲ会場
8:50	開会挨拶				
9:00	一般演題 9:00-9:50 大動脈 セッションⅠ-1	9:00	一般演題 9:00-9:50 心膜・腫瘍 セッションⅡ-1	9:00	一般演題 9:00-9:50 その他 セッションⅢ-1
9:50	一般演題 9:50-10:40 静脈/末梢血管 セッションⅠ-2	9:50	一般演題 9:50-10:40 肺/先天性/高血圧・低血圧/その他 セッションⅡ-2	9:50	一般演題 9:50-10:40 心不全 セッションⅢ-2
10:40	一般演題 10:40-11:30 虚血性心疾患1 セッションⅠ-3	10:40	一般演題 10:40-11:30 心筋炎・心筋症1 セッションⅡ-3	10:40	一般演題 10:40-11:30 弁膜症 セッションⅢ-3
11:30	休憩		休憩		休憩
11:50	教育セッションⅠ 11:50-12:35 心房細動アブレーションの最先端 演者：高橋 良英 (東京医科歯科大学 循環器内科) 座長：山根 禎一 (東京慈恵会医科大学 循環器内科)	11:50	教育セッションⅢ 11:50-12:35 Leadless Pacemaker治療の実際 演者：前田 真吾 (東京医科歯科大学) 座長：萩原 誠久 (東京女子医科大学)	11:50	教育セッションⅤ 11:50-12:35 ホットバルーンの有用性と 使用上のコツ 演者：内藤 滋人 (群馬県立心臓血管センター 循環器内科) 座長：小林 義典 (東海大学医学部付属八王子病院 循環器内科)
12:35	教育セッションⅡ 12:35-13:20 ここまで来た不整脈・心不全に 対するデバイス治療 演者：林 英守 (順天堂大学附属順天堂医院 循環器内科) 座長：里見 和浩 (東京医科大学病院 循環器内科)	12:35	教育セッションⅣ 12:35-13:20 抗凝固療法 演者：清水 渉 (日本医科大学 循環器内科) 座長：平尾 見三 (東京医科歯科大学 循環器内科)	12:35	教育セッションⅥ 12:35-13:20 血栓症予防・治療における最近の知見 演者：原 信博 (武蔵野赤十字病院 循環器科) 演者：佐藤 高栄 (N T T 東日本関東病院 循環器内科) 座長：鈴木 紅 (東京都立墨東病院 循環器科)
13:20	休憩		休憩		休憩
13:50	一般演題 13:50-14:40 虚血性心疾患2 セッションⅠ-4	13:50	一般演題 13:50-14:40 心筋炎・心筋症2 セッションⅡ-4	13:50	一般演題 13:50-14:40 不整脈1 セッションⅢ-4
14:40	一般演題 14:40-15:30 虚血性心疾患3 セッションⅠ-5	14:40	一般演題 14:40-15:30 心筋炎・心筋症3 セッションⅡ-5	14:40	一般演題 14:40-15:30 不整脈2 セッションⅢ-5
15:30	休憩		15:40		
16:00	16:00-16:20 Clinical Research Award		15:40-16:40 男女共同参画フォーラム		
16:20	休憩		16:40		
16:30	16:30-17:40 Case Report Award		16:50		
17:40	閉会挨拶		17:40		
17:45	評議員会				

### 【専門医単位登録に関して】

専門医単位に関するセッション（教育セッション）は、セッション開始前に単位登録手続ブースへお越しくださいますようお願い申し上げます。

セッション終了後には単位のご登録ができないためご注意ください。

また地方会参加単位登録（5単位）、教育セッション（3単位）はそれぞれ単位の登録手続を行っていただく必要がございます。

お手数ではございますがそれぞれの単位のご登録をお願いいたします。

■「地方会参加単位」（5単位）受付時間 9:00～17:40（開催終了まで）

■「教育セッション」（3単位）受付時間 10:50～12:50（開始1時間前から終了30分前までとなります。）

## 第1会場

- セッション I-1 大動脈 9:00-9:50**      **座長** (柏市立柏病院 循環器内科) **小林 和郎**  
**座長** (自治医科大学 循環器内科・心疾患治療部) **船山 大**
- I-1 大動脈解離による前脊髄動脈症候群に対して、スパイナルドレナージが有効であった一例  
(北里大学病院)      坂部 勇太  
成毛 崇、飯田祐一郎、小野 雄大、西澤 義之、  
須賀 裕樹、阿古 潤
- I-2 化膿性関節炎のコントロール後にステントを留置した感染性大動脈瘤の一例  
(新潟県厚生連長岡中央総合病院 循環器内科)      落合 幸江  
富田 任、田川 実、中村 裕一  
(新潟県厚生連長岡中央総合病院 総合診療科)      武藤 祥宏  
(立川総合病院 心臓血管外科)      榎本 貴士
- I-3 診断に苦慮した大動脈破裂の一例  
(国立病院機構埼玉病院 循環器内科)      井合 渉  
田中 宏明、徳田 華子、小野 智彦、矢嶋 紀幸、  
松村 圭祐、鈴木 雅裕
- I-4 上腸間膜動脈灌流障害を合併したStanford B型急性大動脈解離の2症例の経験  
(誠馨会千葉メディカルセンター 心臓血管外科)      松下 明仁  
湯本 啓太、角田 優、服部 隆司、三原 和平
- I-5 腹部大動脈瘤ステント内挿治療後、エンドリークにより大動脈瘤径拡大にて開腹手術を施行した80歳以上の2例  
(心臓血管研究所付属病院)      佐々木健一  
有村 聡士、松濱 稔、国原 孝、矢嶋 純二、  
山下 武志
- I-6 冠動脈疾患を合併した腹部大動脈瘤に対し、低侵襲下に同時手術を行った5例  
(埼玉石心会病院 心臓血管外科)      加藤 昂  
加藤 泰之、山田 宗明、木山 宏、小柳 俊哉
- セッション I-2 静脈/末梢血管 9:50-10:40**      **座長** (東京大学医学部 循環器内科) **瀧本 英樹**  
**座長** (筑波大学医学医療系 循環器内科) **佐藤 明**
- I-7 一時的下大静脈フィルターの高栓が直接経口抗凝固薬によって消失し回収可能となった一例  
(横浜医療センター 循環器内科)      渡辺 真広  
森 文章、岩出 和徳、斎藤 貴士、相山 恒、  
長谷川 瞬、濱田 和幸、前田 僚造
- I-8 直接経口抗凝固薬 (DOAC) が奏功した先天性アンチトロンビン欠損症に伴う急性肺血栓症  
(群馬県立心臓血管センター 循環器内科)      南 健太郎  
熊谷 浩司、菅井 義尚、大塚 佳満、武 寛、  
元田 博之、佐々木健人、中村 紘規、内藤 滋人、  
大島 茂

- I-9 肺塞栓症を繰り返す血栓併存膝窩静脈瘤に対してハンドメイド自家静脈グラフト置換術を施行した一例  
 (東邦大学医療センター佐倉病院 心臓血管外科) 藺藤 佑哉  
 齋藤 綾、本村 昇  
 (東邦大学医療センター佐倉病院 循環器内科) 清水 一寛
- I-10 ワルファリン療法下に静脈血栓塞栓症および心耳内血栓症を発症したが再発予防にDOACが有効であった一例  
 (相模原協同病院 初期臨床研修医) 風呂 正輝  
 (相模原協同病院 循環器内科) 古賀 将史、池田 陸、伊藤 大起、杉原 達矢、  
 杉本 篤彦、干場 泰成、相澤 達、井関 治和
- I-11 慢性心不全患者の腎動脈狭窄症に対し、PTRAにより、心不全及び心機能の改善が得られた1例  
 (公立昭和病院) 萩本 理紗  
 山田 朋幸、橋本 昌樹、本田 圭、廣瀬 和俊、  
 玉置 徹、小阪 明仁、石原有希子、鴨井 祥郎、  
 田中 茂博
- I-12 著明な下肢血管の石灰化から診断に辿りついたcalcification of joints and arteriesの一例  
 (亀田総合病院 循環器内科) 吉岡 賢二  
 黒田 俊介、川上 拓也、金濱 望、立石 遼、  
 橘 伸一、廣木 次郎、新井 紘史、原 聡史、  
 早坂 和人、岩塚 良太、水上 暁、木村 茂樹、  
 松村 昭彦  
 (東京医科歯科大学 大学院保健衛生学研究所 生命機能情報解析学) 笹野 哲郎  
 (東京医科歯科大学 難治疾患研究所 生体情報薬理学) 高橋健太郎、古川 哲史
- I-13 急性上腸間膜動脈閉塞症に対して緊急血栓除去により救命し得た1例  
 (順天堂大学医学部付属順天堂医院) 遠藤 大介  
 梶本 完、山本 平、畑 博明、桑木 賢次、  
 土肥 静之、松下 訓、嶋田 晶江、町田洋一郎、  
 李 智榮、天野 篤
- セッション I-3 虚血性心疾患1 10:40-11:30**  
**座長 (聖路加国際病院 心血管センター 循環器内科) 小宮山伸之**  
**座長 (榊原記念病院 循環器内科) 高見澤 格**
- I-14 冠攣縮性狭心症に脳血管攣縮を合併したと考えられる一例  
 (国立病院機構相模原病院 循環器内科) 圓谷 紘乃  
 中山 未奈、出島 徹、花島 陽平、高村 武、  
 森田有紀子  
 (国立病院機構相模原病院 神経内科) 大沼 広樹、宮下 真信、長谷川一子
- I-15 急性冠症候群へのPCI中に造影剤によるアナフィラキシーショックを生じたが、治療が奏効しPCIを完遂した一例  
 (前橋赤十字病院) 坂井 俊英  
 丹下 正一、庭前 野菊、小暮 真也、今井美智子、  
 内田浩太郎、佐々木孝志、佐鳥 圭輔
- I-16 労作性狭心症治療後、運動負荷心筋シンチグラムにより運動誘発性冠攣縮性狭心症の診断に至った1例  
 (長野赤十字病院 初期研修医) 佐藤 弥生  
 (長野赤十字病院 循環器病センター 循環器科) 小松 稔典、金井 将史、清水 邦彦、浦澤 延幸、  
 白井 達也、宮下 裕介、宮澤 泉、戸塚 信之、  
 吉岡 二郎  
 (上越総合病院 循環器科) 中澤 峻

- I-17 薬剤溶出性ステント留置後に光干渉断層診断法（OFDI）にて冠攣縮の典型的な像を観察できた一例  
（東京都立広尾病院） 新井 智之  
永嶺 翔、川尻 紘平、田邊 翔、古谷野康記、  
時岡紗由理、宮原 大輔、新井真理奈、稲垣 大、  
宮部 倫典、吉田 精孝、宮澤 聡、河村 岩成、  
中田 晃裕、貝原 俊樹、増田新一郎、北條林太郎、  
土山 高明、深水 誠二、渋井 敬志  
（東京医科歯科大学医学部附属病院） 足利 貴志
- I-18 責任病変にステント内再狭窄を繰り返した一例  
（聖隷横浜病院 心臓血管センター内科） 伊藤 美沙  
河合 慧、芦田 和博、新村 剛透、中島 啓介、  
五十嵐 巖、吉野 利尋、真壁 英仁、山田 亘
- I-19 左冠動脈主幹病変を合併した心臓サルコイドーシス症の1例  
（JA長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター） 柳澤 聖  
矢崎 善一、池井 肇、堀込 実岐、木村 光、  
橘 賢廣、荻原 真之、土屋ひろみ
- I-20 金属アレルギーを有する狭心症患者に対してステントレス治療が奏功した1例  
（心臓血管研究所付属病院） 持田高太郎  
松野 俊介、矢嶋 純二、及川 裕二、嘉納 寛人、  
藍原 和史、田邊 弦、沼尾 嘉美、宮田宏太郎、  
永島 和幸、桐ヶ谷 肇、相澤 忠範、山下 武志
- 教育セッションⅠ 11:50-12:35 共催：バイエル薬品株式会社  
心房細動アブレーションの最先端 座長（東京慈恵会医科大学 循環器内科）  
（東京医科歯科大学 循環器内科） 高橋 良英 山根 禎一
- 教育セッションⅡ 12:35-13:20 共催：日本光電工業株式会社  
ここまで来た不整脈・心不全に対するデバイス治療 座長（東京医科大学病院 循環器内科）  
（順天堂大学附属順天堂医院 循環器内科） 林 英守 里見 和浩
- セッションⅠ-4 虚血性心疾患2 13:50-14:40 座長（東海大学医学部 内科学系循環器内科学） 伊莉 裕二  
座長（医療法人五つ星菊名記念病院 循環器センター） 本江 純子
- I-21 側副血行路を伴い冠攣縮の関与が疑われた原発性冠動脈解離による急性心筋梗塞の一例  
（群馬中央病院 循環器内科） 須賀 俊博  
羽鳥 貴、大山 啓太、須賀 裕子、今井 邦彦、  
北原陽之助
- I-22 血管炎の関与が疑われた急性冠症候群の一例  
（自治医科大学附属病院 循環器内科） 齋藤 俊祐  
高橋 政夫、久保田香菜、渡辺 貴裕、  
小古山由佳子、江口 和男、新保 昌久、  
菊尾 七臣

- I-23 急性心筋梗塞を契機に視床下部性副腎不全を来した1例  
 (日本赤十字社東京都支部武蔵野赤十字病院 循環器科) 増田 怜  
 長瀬 将、土方 禎裕、山口 純司、岩井 雄大、  
 渡辺 敬太、佐川雄一郎、宮崎 亮一、三輪 尚之、  
 関川 雅裕、山口 徹雄、原 信博、永田 恭敏、  
 野里 寿史  
 (日本赤十字社東京都支部武蔵野赤十字病院 総合診療科) 宮本 貴庸  
 (東京医科歯科大学医学部付属病院 循環器科) 平尾 見三
- I-24 急性大動脈解離術後の右冠動脈閉塞による右室単独梗塞を背景とした慢性右心不全の一例  
 (自治医科大学 循環器内科) 如水 慶嗣  
 佐藤 雅史、石山 裕介、河野 健、苅尾 七臣
- I-25 ピロリン酸心筋シンチグラフィーで診断した急性下壁心筋梗塞の一例  
 (都立多摩総合医療センター) 櫻井進一郎  
 手島 保、田中 博之、加藤 賢、磯貝 俊明、  
 永田健一郎、三ツ橋佑哉、小木曾正隆、西村 睦弘、  
 森永 弘章、伊東 勘介、木村 晃久、吉田 彩乃
- I-26 冠動脈肺動脈瘻を伴う巨大冠動脈瘤に対し外科的手術を施行した一例  
 (日本大学医学部 心臓血管外科) 鈴木 馨斗  
 宇野澤 聡、北島 史啓、北住 善樹、日野浦 礼、  
 向後 寛子、大幸 俊司、田岡 誠、瀬在 明、  
 中田 金一、田中 正史
- セッション I-5 虚血性心疾患3 14:40-15:30 座長 (草加市立病院 循環器内科) 稲垣 裕  
 座長 (三井記念病院 循環器内科) 田邊 健吾
- I-27 巨大冠動脈瘤を合併した下壁急性心筋梗塞の一例  
 (日本赤十字社医療センター 循環器内科) 上原 和幸  
 瀧澤 雅隆、磯谷 善隆、初瀬 慧、山本 裕子、  
 山本 溪介、魚住 博記、池ノ内 浩
- I-28 特発性冠動脈解離による急性冠症候群の一例  
 (昭和大学横浜市北部病院 心臓血管カテーテル室) 山岡大志郎  
 斎藤 重男、木村 太朗、斎藤 惇平、嶋津 英、  
 大山 祐司、井川 涉、小野 盛夫、木戸 岳彦、  
 荏原誠太郎、岡部 俊孝、山本 明和、磯村 直栄、  
 落合 正彦
- I-29 5年後に再発した特発性冠動脈解離の一例  
 (獨協医科大学病院 心臓・血管内科) 渡辺 諒  
 西野 節、橋本 涼太、増山 大樹、田島 愛美、  
 戸倉 通彰、那須野尚久、金谷 智明、佐久間理史、  
 有川 拓男、豊田 茂、阿部 七郎、井上 晃男
- I-30 左冠動脈側壁領域の虚血に伴う僧帽弁乳頭筋断裂の一例  
 (東千葉メディカルセンター 循環器内科) 佐藤 貴範  
 若林 慎一、石川 啓史、金枝 朋宜、佐野 剛一



I-31 若年発症の冠攣縮性狭心症の一例  
 (JAとりで総合医療センター) 山口 斐  
 徳永 毅、服部英二郎、吉原 弘高、笠野 健介、  
 高野 寿一、中村 峻

I-32 冠攣縮性狭心症により心室細動を繰り返す若年女性の1例  
 (荻窪病院 循環器内科) 渡会 昌広  
 矢崎恭一郎、加畑 充、熊谷 麻子、井上 康二、  
 小金井博士、遠田 賢治、大塚 雅人、石井 康宏

I-33 順行性、逆行性血流が拮抗する左前下行枝の高度狭窄病変に対して薬剤溶出バルーンで治療を行った一例  
 (青梅市立総合病院 循環器内科) 木村 文香  
 栗原 顕、田仲 明史、米内 竜、土谷 健、  
 後藤健太郎、野本 英嗣、大坂 友希、宮崎 徹、  
 鈴木 麻美、小野 裕一、大友建一郎

**Clinical Research Award** 16:00-16:20

座長 (筑波大学医学医療系 循環器不整脈学)	野上 昭彦
座長 (群馬大学大学院医学系研究科 内科学講座循環器内科学)	倉林 正彦
審査委員長 (公益財団法人日本心臓血管研究振興会附属 榊原記念病院)	磯部 光章
審査委員 (東海大学医学部付属八王子病院 循環器内科)	小林 義典
審査委員 (杏林大学医学部 循環器内科)	吉野 秀朗
審査委員 (平塚共済病院 循環器科)	丹羽 明博

I-34 アナフィラキシーによって誘発されたST上昇型側壁心筋梗塞の一例  
 (東京医療センター 循環器内科) 西村 崇文  
 池上 幸憲、宮崎 良央、関 俊樹、青山 真之、  
 角田那由香、樺山 幸彦

I-35 無症候性心房細動を予見する方法の開発  
 (東京大学医学部付属病院 循環器内科) 松原 巧  
 藤生 克仁、小寺 聡、清水 悠、小栗 岳、  
 小島 敏弥、荷見映理子、渡辺 昌文、小室 一成

**Case Report Award** 16:30-17:40

座長 (順天堂大学大学院医学研究科 循環器内科学)	代田 浩之
座長 (東邦大学医療センター 佐倉病院 循環器内科)	野呂 真人
審査委員長 (東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学)	小室 一成
審査委員 (筑波大学 医学医療系)	小池 朗
審査委員 (東京医科歯科大学 循環器内科 茨城県循環器地域医療学)	足利 貴志
審査委員 (聖マリアンナ医科大学 循環器内科)	明石 嘉浩

I-36 持続性心室頻拍に心内・外膜からBipolar Ablationを施行した左室瘤併発心室中部閉塞性肥大型心筋症の一例  
 (東京医科歯科大学循環器内科) 李 基鎬  
 合屋 雅彦、中釜 瞬、仁井田崇志、松田 祐治、  
 仲村 太一、潮平 親哉、平澤 憲祐、金子 雅一、  
 白井 康大、柳下 敦彦、篠岡 太郎、秦野 雄、  
 梅本 朋幸、前田 真吾、高橋 良英、山本 貴信、  
 前嶋 康浩、川端美穂子、足利 貴志、平尾 見三

I-37 免疫チェックポイント阻害剤により自己免疫性心筋炎など多彩な合併症をきたした一例  
 (筑波大学附属病院 医学医療系 循環器内科) 酒井 俊介  
 田尻 和子、長谷川純郎、山本 昌良、橋本 直明、  
 瀬尾 由広、佐藤 明、青沼 和隆、野上 昭彦

- I-38 ヒト骨格筋由来細胞シート移植術の2症例報告  
 (東京大学 心臓外科) 小前 兵衛  
 縄田 寛、乾 明敏、八湊 一貴、岡村 賢一、  
 星野 康弘、峯岸 祥人、嶋田 正吾、木下 修、  
 益澤 明広、山内 治雄、平田 康隆、小野 稔、  
 (東京大学 循環器内科) 新田 大介、牧 尚孝、網谷 英介、波多野 将
- I-39 高用量免疫グロブリン療法にて治療しえた、心嚢水貯留を伴う全身性毛細血管漏出症候群の1例  
 (独立行政法人国立病院機構 災害医療センター) 鈴木 雅仁  
 神山 まゆ、秋元 耕、矢部 顕人、松本 彩和、  
 福島 琢、榊原 温志、山下 周、近江 哲生、  
 大野 正和、佐々木 毅、清水 茂雄  
 (東京医科歯科大学医学部附属病院 循環器内科) 平尾 見三
- I-40 PCSK-9阻害薬を用いた積極的LDL低下療法により短期間でバイパスグラフトのプラーク退縮を認めた一例  
 (東京女子医科大学病院) 川本 尚宜  
 中尾 優、神波 裕、田中 一樹、大槻 尚男、  
 嵐 弘之、山口 淳一、佐藤加代子、萩原 誠久
- I-41 古典的三心房心と診断し、左房内異常隔壁の外科的切除後に僧帽弁閉鎖不全症の増悪を認めた一例  
 (東京都立広尾病院 循環器科) 貝原 俊樹  
 増田新一郎、宮原 大輔、古谷野康記、時岡紗由理、  
 新井真理奈、稲垣 大、宮部 倫典、吉田 精孝、  
 宮澤 聡、河村 岩成、中田 晃裕、永嶺 翔、  
 北條林太郎、土山 高明、深水 誠二、洪井 敬志  
 (東京都立広尾病院 心臓血管外科) 田崎 大、伊藤 聡彦、渡邊 正純  
 (東京医科歯科大学医学部附属病院 循環器内科) 平尾 見三
- I-42 産後の急性心筋梗塞を契機に古典的エーラスダンロス症候群と診断された一例  
 (聖路加国際病院) 高岡 慶光  
 小松 一貴、福田 旭伸、水野 篤、木島 康文、  
 椎名 由美、塩田 恭子、山中美智子、小宮山伸之、  
 丹羽公一郎  
 (信州大学医学部附属病院) 山口 智美、古庄 知己

## 第2会場

- セッションⅡ-1 心膜・腫瘍 9:00-9:50 座長 (筑波大学医学医療系 臨床検査医学) 石津 智子  
座長 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 香坂 俊
- Ⅱ-1 重篤な転帰をとった多発性左房内腫瘍の一例  
(済生会前橋病院 循環器内科) 樺澤 洋治  
直田 匡彦、石窪 太人、土屋 寛子、館野利絵子、  
戸島 俊一、池田 士郎、中野 明彦、福田 丈了  
(伊勢崎市民病院) 大林 民幸
- Ⅱ-2 急性心膜炎が契機となって診断、根治に至った成熟奇形腫  
(湘南鎌倉総合病院 循環器内科) 小池 達也  
田中 穰、宍戸 晃基、横田 翔平、林 高大、  
宮下 紘和、横山 裕章、高田 卓磨、西本 隆史、  
森山 典晃、佃 早央莉、飛田 一樹、山中 太、  
水野 真吾、村上 正人、松実 純也、高橋佐枝子、  
齋藤 滋
- Ⅱ-3 心室頻拍を合併した心臓血管腫の一例  
(東海大学 医学部付属病院 循環器内科学) 酒井 哲理  
伊莉 裕二、吉岡公一郎、網野 真理、神田 茂孝、  
橋田 匡史、綾部 健吾、坂間 晋
- Ⅱ-4 化膿性心外膜炎と感染性大動脈瘤を合併した侵襲性肺炎球菌感染症の一例  
(東京都立墨東病院 循環器科) 齊藤 智子  
服部 愛、青山 拓令、平野 仁士、玄 哲樹、  
大橋 浩一、油井 慶晃、黒木 識敬、弓場 隆生、  
安倍 大輔、鈴木 紅、佐々 達郎
- Ⅱ-5 胸膜中皮腫に対する放射線治療後、遠隔期に収縮性心膜炎を合併した一例  
(小倉記念病院 循環器内科) 滝口 洋  
(公立学校共済組合関東中央病院 循環器内科) 杉下 靖之、田部井史子、伊藤 敦彦、杉本 恒明、  
山下 尋史  
(公立学校共済組合関東中央病院 病理科) 岡 輝明
- Ⅱ-6 化膿性心膜炎から収縮性心膜炎を発症し心不全の増悪を認めたが、内科的治療のみで軽快した1例  
(昭和大学 藤が丘病院 循環器内科) 南雲さくら  
前田 敦雄、江波戸美緒、鈴木 洋
- セッションⅡ-2 肺/先天性/高血圧・低血圧/その他 9:50-10:40 座長 (杏林大学 循環器内科) 佐藤 徹  
座長 (順天堂大学医学部 循環器内科) 小西 博広
- Ⅱ-7 維持透析患者に発症した肺高血圧症に対して多剤併用療法が著効した一例  
(国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院) 埜本 優太  
藤井 洋之、大森 真理、金田 俊雄、山上 洋介、  
佐藤 慶和、飯谷 宗弘、島田 博史、萬野 智子、  
清水 雅人、鈴木 誠、山分 規義

II-8 リスク軽減目的のBPA後にPEAを安全に施行できた重症CTEPHの2例  
 (東京医科大学 心臓血管外科) 鈴木 隼  
 小泉 信達、加納 正樹、丸野 恵大、藤吉 俊毅、  
 河合 幸史、高橋 聡、岩橋 徹、神谷健太郎、  
 西部 俊哉、荻野 均  
 (東京医科大学 循環器内科) 山下 淳

II-9 右室冠動脈瘻および左室緻密化障害を伴った心房中隔欠損症術後の一例  
 (昭和大学江東豊洲病院 循環器内科) 土至田 勉  
 若林 公平、三好 史人、菊池 美和、池田 尚子、  
 西藏 天人、佐藤 千聡、古屋 貴宏、柴田 恵多、  
 丹野 郁

II-10 長期にわたって包括的薬物治療管理を行っている全身性動脈硬化症合併の腎血管性高血圧の1例  
 (横浜市立大学 医学部 循環器・腎臓・高血圧内科学) 藤野 洋平  
 中島 理恵、野田 光里、松本 祐介、小林 竜、  
 畝田 一司、小村 直弘、石上 友章、石川 利之、  
 戸谷 義幸、菅野 晃靖、田村 功一

II-11 18歳女性に発症した不全型川崎病による急性心筋梗塞の一例  
 (SUBARU健康保険組合 太田記念病院) 田村 崇行  
 能戸 辰徳、佐原 尚彦、雨宮 勝嗣、長島 義宜、  
 根本 尚彦、安齋 均、小林 延行

II-12 閉塞性肥大型心筋症ならびに高度石灰化を伴う僧帽弁狭窄症に感染性心内膜炎を発症した一例  
 (東京都健康長寿医療センター 循環器内科) 大川 庭熙  
 二見崇太郎、両角 愛、齋藤 義弘、根本 佳子、  
 村田 哲平、青山 里恵、杉江 正光、田中 旬、  
 石山 泰三、石川 譲治、坪光 雄介、武田 和大、  
 藤本 肇、原田 和昌  
 (心臓外科) 河田 光弘、西村 隆

セッションII-3 心筋炎・心筋症1 10:40-11:30 座長 (信州大学医学部 循環器内科) 桑原宏一郎  
 座長 (秀和総合病院 循環器内科) 安達 進

II-13 好酸球性心膜心筋炎に対してステロイド投与開始時期に苦慮した一例  
 (東京山手メディカルセンター 循環器内科) 永井 博之  
 落田 美瑛、前野 遼太、川口 直彦、村上 輔、  
 渡部 真吾、吉川 俊治、鈴木 篤、山本 康人、  
 薄井 宙男  
 (東京山手メディカルセンター 血液内科) 米野由希子  
 (東京医科歯科大学医学部付属病院 循環器内科) 平尾 見三

II-14 閉塞性肥大型心筋症に対してペースメーカー植え込み術が有用と考えた2例  
 (横須賀市立うわまち病院 循環器科) 押田 裕喜  
 岩澤 孝昌、水政 豊、黒木 茂、泊口 哲也、  
 島村 浩正、荒木 浩、古屋敷吉任、沖下 卓也、  
 沼田 裕一

II-15 巨細胞性心筋炎に対しアザチオプリンとステロイドの効果を中心生検で確認できた一例  
 (獨協医科大学 循環器・腎臓内科) 綿引 愛美  
 菅原 里恵、渡邊 朋子、内田 麻友、平尾 潤、  
 石田 和俊、米澤 泰、小口 渉、柴田 佳優、  
 矢野 秀樹、本多 勇晴、八木 博、堀中 繁夫、  
 石光 俊彦

II-16 メトトレキサートの追加が炎症の抑制に有効であった心サルコイドーシスの一例  
 (聖路加国際病院 循環器内科) 木島 康文  
 西畑 庸介、會田 敏、高岡 慶光、蟹江 崇芳、  
 望月 宏樹、大野 雅文、木全 啓、福田 旭伸、  
 水野 篤、中岡 幹彦、椎名 由美、三橋 弘嗣、  
 中里 良、横山 泰廣、新沼 廣幸、丹羽公一郎、  
 小宮山伸之

II-17 家族歴を契機に診断された心ファブリー病の一例  
 (平塚共済病院 心臓センター 循環器科) 綱本 浩志  
 大西 隆行、戸舎 稚詞、小澤 貴暢、荒木 恵子、  
 岩井 慎介、中野 国晃、村本 容崇、樋口 晃司、  
 小林 一士、大西 祐子、佐藤 康弘、梅澤 滋男、  
 丹羽 明博  
 (東京医科歯科大学 循環器科) 平尾 見三

II-18 右房内血栓による肺血栓塞栓症により繰り返し循環破綻をきたした拘束型心筋症の若年例  
 (長野中央病院 循環器内科) 山本 博昭  
 板本智恵子、林 充那登、三浦 英男、河野 恒輔

教育セッションⅢ Leadless Pacemaker治療の実際 (東京医科歯科大学)	11:50-12:35	共催：日本メドトロニック株式会社 座長 (東京女子医科大学) 萩原 誠久
前田 真吾		
教育セッションⅣ 抗凝固療法 (日本医科大学 循環器内科)	12:35-13:20	共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 座長 (東京医科歯科大学 循環器内科) 平尾 見三
清水 渉		
セッションⅡ-4 心筋炎・心筋症2	13:50-14:40	座長 (北里研究所病院 循環器内科) 猪又 孝元 座長 (武蔵野赤十字病院 循環器科) 野里 寿史

II-19 早期のステロイドパルス療法により良好な転帰をたどった急性好酸球性心筋炎の一例  
 (自治医科大学さいたま医療センター) 澤野晋之介  
 伊部 達郎、羽鳥 将史、玉那覇雄介、和田 浩、  
 坂倉 建一、百村 伸一、藤田 英雄

II-20 拡大のない左室にHeartMate IIを植え込み適切に管理し得た拡張相肥大型心筋症の一例  
 (東京都健康長寿医療センター) 眞野 暁子  
 西村 隆、村田 知洋、河田 光弘、許 俊鋭  
 (東京都健康長寿医療センター 循環器内科) 田中 旬、藤本 肇、原田 和昌

II-21 舌生検より確定診断したAL型心アミロイドーシスの1剖検例  
 (公立阿伎留医療センター 循環器内科) 岡部 龍太  
 木内 仁志、片山 直之、松永 洋一、樫田 光夫

II-22 ミトコンドリア心筋症に矛盾しない病理所見を呈するも、著明な心機能改善が得られた若年重症心不全の一例  
(NTT東日本関東病院 循環器内科) 進藤 彰人  
箸方 健宏、角田 昇隆、勝然 進、横山 正明、  
岸 幹夫、佐藤 高栄、松下匡史郎、大西 哲、  
山崎 正雄

II-23 当院でのタコツボ型心筋症を見直す  
(埼玉県立循環器・呼吸器病センター) 河邊 篤彦  
武藤 誠、中島 崇智、宮本 敬史、藤原 堅祐、  
鈴木 輝彦、村上 彰通、藤井 真也、永吉 信哉、  
宇野 剛輝、利根川玲奈

II-24 虚血性心疾患および肥大型心筋症との鑑別に難渋した心臓サルコイドーシスの一例  
(北里大学北里研究所病院 循環器内科) 水谷 知泰  
山田 容子、石田 三和、猪又 孝元  
(北里大学医学部 循環器内科学) 阿古 潤哉

セッション II-5 心筋炎・心筋症3 14:40-15:30 座長 (信州大学医学部 循環器内科) 元木 博彦  
座長 (東京慈恵会医科大学 内科学講座循環器内科) 名越 智古

II-25 心臓MRIがサルコイドーシスの活動性の評価に有用であった一例  
(東京都保健医療公社 豊島病院) 大方信一郎  
藤波 竜也、平野 秀典、川村 隆貴、森 大、  
佐伯 仁、畑 明宏  
(東京医科歯科大学 循環制御内科学) 平尾 見三

II-26 S状中隔による軽度左室流出路狭窄がたこつぼ心筋症により増悪した一例  
(諏訪赤十字病院 循環器内科) 町田 圭介  
榎本 香織、小松 美穂、川口 政徳、相澤 万象、  
筒井 洋、大和 真史

II-27 病初期から経過を観察しえた心アミロイドーシスの一例  
(藤沢市民病院) 吉井 智洋  
塚原 健吾、三橋 孝之、高野 桂子、西川 慶、  
古賀伸太郎、堤 勝彦

II-28 2度房室ブロックを伴う心サルコイドーシスに対してステロイド治療を行ったが再燃を認めペースメーカー植え込み術を要した一例  
(埼玉医大国際医療センター 心臓内科) 田原 舞  
加藤 律史、森 仁、浅野 奏、田中沙綾香、  
志貴祐一郎、後藤 貢士、池田 礼史、岩永 史郎、  
村松 俊裕、松本 万夫

II-29 トラスツズマブ投与中に高度房室ブロックを発症した乳がんの一例  
(慈恵医科大学 葛飾医療センター) 王 琢矢  
関 晋吾、松尾征一郎、久保田健之、鳴井 亮介、  
吉田 律、磯谷 亮太、池田 和也、前原 智紀、  
岡島 英梨  
(東京慈恵会医科大学附属病院) 吉村 道博

- II-30 好酸球性蜂窩織炎発症から好酸球性心筋炎を合併した若年女性の1例  
 (東京慈恵会医科大学第三病院 循環器内科) 船木 隆司  
 堤 穰志、高橋 弘武、大東 周碁、銭谷 大、  
 小山 達也、香山 洋介、森 力、芝田 貴裕、  
 吉村 道博
- 男女共同参画フォーラム より多くの若手医師を循環器に勧誘するために 15:40-16:40  
 座長 (東京医科歯科大学 循環器内科) 川端美穂子  
 座長 (東京女子医科大学 循環器内科) 萩原 誠久  
 (群馬大学医学部 循環器内科) 小板橋紀通  
 (日本医科大学 循環器内科) 塚田 弥生  
 (平塚共済病院 循環器科) 大西 祐子  
 (国立病院機構 霞ヶ浦医療センター) 鈴木 祥司
- Resident Award 16:50-17:40  
 座長 (獨協医科大学 心臓・血管内科) 井上 晃男  
 座長 (医療法人邦友会小田原循環器病院 循環器内科) 杉 薫  
 審査委員長 (順天堂大学医学部附属浦安病院 循環器内科) 中里 祐二  
 審査委員 (東京慈恵会医科大学 循環器内科) 山根 禎一  
 審査委員 (北里大学医学部 循環器内科学) 阿古 潤哉  
 審査委員 (東京警察病院 循環器科) 白井 徹郎
- II-31 急性大動脈解離を疑い施行した胸腹骨盤造影CT検査にて、高位側壁枝急性心筋梗塞の診断に至った一例  
 (JCHO東京高輪病院) 池窪 彩子  
 田尻 勇太、松田 剛、堀 正規、山本 雅人
- II-32 抗凝固療法にて巨大大動脈内血栓が消失した一例  
 (SUBARU健康保険組合太田記念病院) 吉川 遥菜  
 佐原 尚彦、雨宮 勝嗣、長島 義宜、根本 尚彦、  
 安齋 均、小林 延行
- II-33 冠動脈疾患を併発し、TNNT2とMYH7にミスセンス変異を認めた左室緻密化障害の成人例  
 (国立国際医療研究センター病院) 三宅 渉  
 葉山 裕真、工藤 綾子、岩間健太郎、石井 梨奈、  
 中村友紀子、久保田修司、粟屋 徹、中川 堯、  
 岡崎 徹、山本 正也、岡崎 徹、岡崎 修、  
 原 久男、廣江 道昭、廣井 透雄
- II-34 甲状腺クリーゼを契機に致死性心室性不整脈を合併した1例  
 (東京都保健医療公社 荏原病院) 田村 彩乃  
 土橋慎太郎、仁禮 隆、日吉 康長、小林建三郎、  
 若倉 真吾  
 (東邦大学医療センター大森病院) 佐藤 秀之
- II-35 人工弁周囲逆流を繰り返し、5度の開胸手術後にパーチェット病と診断された一例  
 (東京大学医学部附属病院 循環器内科) 小池 毬子  
 稲葉 俊郎、山田臣太郎、波多野 将、渡辺 昌文、  
 小室 一成

## 第3会場

セッションⅢ-1 その他

9:00-9:50

座長 (信州大学 医学部 保健学科) 伊澤 淳

座長 (東京医科歯科大学 循環器内科) 前嶋 康浩

Ⅲ-1 PCI後に左鼠径部に仮性動脈瘤を生じ、圧迫治療後歩行中に肺塞栓による心肺停止をきたし、PCPSにより救命  
(千葉西総合病院 心臓センター 循環器科) 高橋 茉理瑛

三角 和雄、畠山 和昌、橋本 勝也、浅見 貞晴、  
牧野 仁人、登根健太郎、海老原敏郎、谷口 優、  
大槻 しほ、廣瀬 信、飯塚 大介、横田 光俊、  
吉田 俊彦、新田 正光、倉持 雄彦

Ⅲ-2 ルーリッシュ症候群に対して血管内治療を選択した一例

(東京警察病院 循環器科)

丹下 徹彦  
白井 徹郎、笠尾 昌史、金子 光伸、島村 元章、  
谷本 周三

Ⅲ-3 尿管結石への入院加療後に心不全が増悪し、診断されたValsalva洞動脈瘤破裂の一例

(日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科)

川端 真里佐  
黄 俊憲、太良 修平、浅野 和宏、名尾 敬子、  
三軒 豪人、高橋 健太、小野寺健太、山本 剛、  
清水 渉

(日本医科大学付属病院 循環器内科)

林 洋史、泉 佑樹

(日本医科大学付属病院 心臓血管外科)

坂本俊一郎、新田 隆

Ⅲ-4 CT値が術前の性状診断に唯一役立った右房内血栓の一例

(帝京大学医学部附属病院 循環器内科)

石橋 瑠璃  
片岡 明久、荒井茉奈穂、片山 大河、岡部 竜太、  
中島 真、渡邊 雄介、横山 直之、上妻 謙  
池田 司、原田 忠宜、尾澤 直美、飯田 充、  
今水流智浩、下川 智樹

(帝京大学医学部附属病院 病理診断科)

近藤 福雄

(帝京大学医学部附属溝口病院 病理診断科)

阿曾 達也

Ⅲ-5 高齢肺動脈性肺高血圧症に対してトレプロスト持続皮下注と心臓リハビリを導入し、在宅ケアに移行できた1例

(獨協医科大学 日光医療センター 心臓・血管・腎臓内科)

星合 愛  
長尾 萌子、巴 崇、杉山 拓史、上野明日香、  
上間 貴子、石川まゆ子、下山 正博、安 隆則

(獨協医科大学 日光医療センター リハビリテーション部)

田村 由馬

(獨協医科大学 日光医療センター 循環器内科)

堀江 康人、杉村 浩之

Ⅲ-6 循環器学会地方会の症例報告抄録の適切な書き方の検討

(千葉大学 医学部 医学科 4年生)

星 佳佑

(千葉大学医学部循環器内科)

船橋 伸禎、小澤 公哉、小林 欣夫

(浜松医科大学脳神経外科)

植村 研一



セッションⅢ-2 心不全

9:50-10:40

座長 (東京大学医学部 循環器内科・ユビキタス予防医学講座) 池田 祐一  
座長 (自治医科大学附属さいたま医療センター 循環器内科) 和田 浩

Ⅲ-7 粘液水腫性昏睡に合併した重症心不全の一例

(秀和総合病院 循環器内科)

飯田 健太  
高村 千智、吉田 誠吾、後藤 亮、安達 進、  
萩元 宣彦  
(東京医科歯科大学 循環制御内科学) 平尾 見三

Ⅲ-8 低心拍出性心不全を呈し、診断に難渋した脚気心の一例

(昭和大学 循環器内科学部門)

豊崎 瑛士  
近藤 誠太、正司 真、大沼 善正、木庭 新治

Ⅲ-9 心不全発症を契機に診断された心臓限局性サルコイドーシスの一例

(日本医科大学付属病院 初期臨床研修医)

三宅 友彬

(日本医科大学付属病院 循環器内科)

吉永 綾、佐藤 達志、茂澤 幸右、西 祐吾、  
丸 有人、岡 英一郎、野間さつき、林 洋史、  
山本 哲平、岩崎 雄樹、清水 渉

Ⅲ-10 治療経過中に発症したショックの鑑別に難渋した甲状腺クリーゼを合併した心不全の一例

(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)

井出 志穂

中村 正人、諸井 雅男、鈴木 真事、原 英彦、  
飯島 雷輔、小野 剛、中村啓二郎、高亀 則博、  
武中 宏樹、清水 貴之

Ⅲ-11 遠隔期に穿孔を起こしたICDリードを外科的に抜去した1例

(日本医科大学付属病院)

井関 陽平

宮城 泰雄、山田 直輝、青山 純也、上田 仁美、  
森嶋 素子、廣本 敦之、鈴木 憲治、栗田 二郎、  
佐々木 孝、坂本俊一郎、石井 庸介、師田 哲郎、  
新田 隆

Ⅲ-12 筋強直性ジストロフィーに心不全を合併した一例

(東京大学医学部附属病院 初期研修医)

小林 敦

(東京大学医学部附属病院 循環器内科)

吉田由理子、清末 有宏、皆月 隼、細谷 弓子、  
赤澤 宏、波多野 将、渡辺 昌文、小室 一成  
(東京大学医学部附属病院 神経内科) 清水 潤

セッションⅢ-3 弁膜症

10:40-11:30

座長 (東京都保健医療公社豊島病院 循環器内科) 畑 明宏  
座長 (獨協医科大学日光医療センター 心臓・血管・腎臓内科) 安 隆則

Ⅲ-13 巨大肺動静脈瘻に対しコイル塞栓術を施行した三尖弁ボール弁置換術後の一例

(新潟大学医歯学総合病院 循環器内科)

松尾 聖

保屋野 真、柳川 貴央、小澤 拓也、柏村 健、  
尾崎 和幸、南野 徹  
(新潟大学医歯学総合病院 放射線科) 佐藤 辰彦、八木 琢也、堀井 陽祐、高野 徹

Ⅲ-14 術後10年目に急速な生体弁機能不全を来し、感染を契機に左心機能低下を生じた若年大動脈弁置換術後の一例

(順天堂大学 医学部 循環器内科)

砂山 勉

(順天堂大学 医学部 心臓・血管外科)

宮崎彩記子、森本 良子、村田 梓、清水 孝史、  
高村 和久、林 英守、大村 寛敏、代田 浩之  
山本 平、天野 篤

- Ⅲ-15 感染性心内膜炎を契機に発見された大動脈一尖弁の一例  
 (東京慈恵会医科大学附属病院 循環器内科) 湯澤 尚子  
 森本 智、宇野 剛輝、吉田 純、福本 梨沙、  
 田中 寿一、小川 和男、南井 孝介、吉村 道博
- Ⅲ-16 大動脈弁位生体弁の急速な再狭窄を認めた間質性肺炎合併の透析患者の一例  
 (自衛隊中央病院 循環器内科) 前川原慧則  
 森 仁、永沼 嗣、濱部 晃、田原 舞、  
 滝口 俊一、中家 和宏、鯨岡 武彦、  
 新居田登三治、佐藤 和輝、田畑 博嗣  
 (自衛隊中央病院 心臓血管外科) 林 一郎、吉川 英治、加島 一郎
- Ⅲ-17 大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術 (AVR) 後に心室間短絡を発症した一例  
 (医療法人社団日高会 日高病院 心臓血管外科) 矢野 隆  
 大野 英昭
- Ⅲ-18 活動性感染性心内膜炎に対し glutaraldehyde 補助で僧帽弁形成を施行できた1例  
 (藤沢市民病院 心臓血管外科) 磯田 晋  
 磯田 晋、松木 佑介、富田 啓人  
 (横浜市立大学 外科治療学) 益田 宗孝
- Ⅲ-19 心停止をくり返したASに対して、BAV、AVRを施行して救命した1例  
 (さいたま赤十字病院 心臓血管外科) 清水 寿和  
 森田 英幹、住吉 力、青木 雅一、長野 博司、  
 松田 隼治  
 (さいたま赤十字病院 循環器内科) 大和 恒博、松村 穰、新田 順一
- 教育セッションV 11:50-12:35 共催：センチュリーメディカル株式会社  
 ホットバルーンの有用性と使用上のコツ 座長 (東海大学医学部附属八王子病院 循環器内科)  
 (群馬県立心臓血管センター 循環器内科) 内藤 滋人 小林 義典
- 教育セッションVI 12:35-13:20 共催：第一三共株式会社  
 血栓症予防・治療における最近の知見 座長 (東京都立墨東病院 循環器科)  
 (武蔵野赤十字病院 循環器科) 原 信博 鈴木 紅  
 (N T T 東日本関東病院 循環器内科) 佐藤 高栄
- セッションⅢ-4 不整脈1 13:50-14:40 座長 (東京女子医科大学 循環器内科) 萩原 誠久  
 座長 (昭和大学医学部 循環器内科) 小林 洋一
- Ⅲ-20 特発性心室細動による心肺停止蘇生後にS-ICD植え込みを行った一例  
 (武蔵野赤十字病院 循環器科) 長瀬 将  
 三輪 尚之、土方 禎裕、山口 純司、岩井 雄大、  
 佐川雄一朗、増田 怜、宮崎 亮一、関川 雅裕、  
 山口 徹雄、原 信博、永田 恭敏、野里 寿史  
 (東京医科歯科大学 循環器内科) 平尾 見三
- Ⅲ-21 頻脈性心房細動を伴う甲状腺クリーゼに対し点滴静注及び経皮吸収型  $\beta$ 1遮断剤でレートコントロールした一例  
 (草加市立病院 循環器内科) 林 颯吾  
 中尾 仁彦、三澤 透、的場 孝盛、古浦 賢二、  
 中島永美子、大西健太郎、石丸 剛、岡田 寛之、  
 稲垣 裕、土信田伸夫、高元 俊彦  
 (東京医科歯科大学 循環器内科) 平尾 見三

- Ⅲ-22 持続性心房細動が上大静脈におけるドライバーにより維持されていた2症例  
 (土浦協同病院 循環器内科) 山尾 一哉  
 蜂谷 仁、宮崎 晋介、中村 浩章、五十嵐 都、  
 久佐 茂樹、梶山 貴嗣、菅野 昭憲、山口 正男、  
 羽田 昌浩、大屋 寛章、福田 正、住野 陽平、  
 菅野 義典、濱谷 陸太、星野 昌弘、白井 英祐、  
 金地 嘉久、米津 太志、角田 恒和、家坂 義人
- Ⅲ-23 カテーテルアブレーション中のI-gel挿入により術後に喉頭外傷を来した一例  
 (自衛隊中央病院循環器内科) 永沼 嗣  
 森 仁、田原 舞、濱部 晃、中家 和宏、  
 滝口 俊一  
 (国家公務員共済組合連合会三宿病院循環器内科) 田畑 博嗣、鯨岡 武彦、新居田登三治、  
 佐藤 和輝  
 (防衛以下大学校 集中治療部) 高瀬 凡平
- Ⅲ-24 DOACによる出血性合併症を来した高齢者慢性心房細動の3例  
 (江東病院 循環器内科) 呉本 健一  
 神山 崇、松本 貴宏、高部 智哲、山上伸一郎、  
 田宮 栄治、加納 達二  
 (順天堂大学 循環器内科) 田淵 晴名、華藤 芳輝、岡崎 真也、代田 浩之
- Ⅲ-25  $\beta$ 遮断薬減量を契機に顕在化し、無冠尖やや上方にて成功通電を得た高齢ATP感受性心房頻拍の1例  
 (自治医科大学 医学部 循環器内科学講座) 鈴木 悠介  
 渡部 智紀、小古山由佳子、横山 靖浩、  
 横田 彩子、小森 孝洋、甲谷 友幸、今井 靖、  
 星出 聡、蜂谷 仁  
 (総合病院 土浦協同病院) 菊尾 七臣
- セッションⅢ-5 不整脈2 14:40-15:30** **座長 (横浜市立みなと赤十字病院 循環器科) 沖重 薫**  
**座長 (さいたま赤十字病院 循環器内科) 新田 順一**
- Ⅲ-26 S-ICD不適切作動をきたしリードノイズ回避のための検出方法再検が必要であったBrugada症候群の1例  
 (国際医療福祉大学 循環器内科) 佐竹 洋之  
 布田 紗彩、斎藤 大樹、高田 剛史、兼光 伯法、  
 武田 守彦、柴 信行  
 (国際医療福祉大学 循環器内科 ハートリズム科) 福田 浩二
- Ⅲ-27 周産期の心室頻拍管理に苦慮した一例  
 (北里大学 医学部 循環器内科学) 田村 佳美  
 岸原 淳、西成田 亮、深谷 英平、荒川 雄紀、  
 堀口 愛、中村 洋範、及川 淳、佐藤 陽、  
 庭野 慎一、阿古 潤哉
- Ⅲ-28 潜在性WPW症候群のアブレーション後遠隔期、同部位の顕性KENT伝導を認めた1例  
 (荻窪病院 心臓血管センター 循環器内科) 矢崎恭一郎  
 渡会 昌広、加畑 充、熊谷 麻子、井上 康二、  
 小金井博士、遠田 賢治、大塚 雅人、石井 康宏
- Ⅲ-29 非通常型心房粗動と通常型心房粗動の2種類の鋸歯状波を認めた一例  
 (国立病院機構 横浜医療センター) 齋藤 貴士  
 森 文章、前田 遼造、梶山 恒、濱田 和幸、  
 長谷川 瞬、渡邊 真広、網代 洋一、岩出 和徳

- Ⅲ-30 右室中隔の低電位領域に存在する遅延電位を指標にVTアブレーションに成功した心臓サルコイドーシスの1例  
(聖マリアンナ医科大学 循環器内科) 笠川 彰  
高野 誠、山田麻里可、中島育太郎、木田 圭亮、  
宮崎 秀和、原田 智雄、明石 嘉浩
- Ⅲ-31 画像検査のみ所見を認め、早期介入が奏功したアミオダロンによる間質性肺炎の一例  
(慶應義塾大学医学部 内科学教室 専修医) 神谷 高博  
(慶應義塾大学医学部 内科学教室 循環器内科) 市原 元気、勝俣 良紀、白石 泰之、河野 隆志、  
湯浅 慎介、村田 光繁、福田 恵一
- Ⅲ-32 頻拍性不整脈、冠動脈疾患、弁膜症を合併した心不全に対しカテーテルと手術のハイブリット治療を行った一例  
(総合東京病院 循環器内科) 羽田 佑  
村松 俊哉、塚原 玲子、中野 雅嗣、西尾 智、  
滝村由香子、滝村 英幸、矢部 敬之、河野 真美

## 一般社団法人日本循環器学会 支部規程

### (総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

### (事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

### (目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

### (会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

### (社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

### (支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

### (支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

### (支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

### (支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

### (支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
  - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
  - 2) 地方会会長の選出
  - 3) 支部運営上重要な規則の承認
  - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
  - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
  - 2) 決定された支部長の確認
  - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
  - 4) 支部運営上重要な規則の確認
  - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
  - 1) 予算・決算
  - 2) 事業計画および事業報告
  - 3) 地方会会長及び地方会開催地
  - 4) 支部長の選出結果
  - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第16条 各支部は地方会を年1回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後2ヵ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第17条 各支部はJCS-ITC講習会をJCS-ITC担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

## 支部コンプライアンス・倫理規程

### (目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

### (定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

### (支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

### 附 則

- 1) 本規程は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。



## 一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部運営内規

### (総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を関東甲信越支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

### (支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内に設置する。

### (支部長)

#### 第3条

- 1 2年毎に行われる理事選出選挙の後、第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は4月1日からとする。
- 2 支部長は日本循環器学会の関東甲信越地区で選出された理事の互選によって決定され、当該年度における本支部の事務を処理する。
- 3 支部規程第6条の4項に沿い、支部長の任期は2年とし再任を妨げないとするが、本支部における支部長の連続して就任できる期数は2期（通算4年）までとする。
- 4 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

### (支部役員)

#### 第4条

- 1 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部に所属する社員から支部長が推薦した者が務める。
- 2 支部役員の定数は、本支部においては16名程度とする。内訳としては支部に所属する理事（関東甲信越地区、女性、小児科、外科）とその他の役員とする。
- 3 支部役員は、関東甲信越地区の理事が推薦する、教授または部長以上の支部所属の社員とし、任期2年で再選は妨げない。関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
- 4 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

### (支部監事)

#### 第5条

- 1 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。
- 2 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、支部長が候補者を社員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。
- 2 監事は本支部の会計その他の事務遂行状況の監査を行うものとする。その任期は2年とし、再任はさまたげない
- 3 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

### (支部幹事)

#### 第6条

- 1 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC 講習

- 会担当幹事 1 名、男女共同参画委員会担当幹事 1 名とし、支部役員との兼務も可能とする。
- 2 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
  - 3 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
  - 4 支部幹事は、会員の中から選出することとし、関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
  - 5 支部幹事は、それぞれの業務において投資（JCS-ITC 講習会用のマネキン、事務局運営用のパソコン等）が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

#### （支部評議員）

#### 第 7 条

- 1 支部規程第 7 条に定める支部評議員は、現任の支部評議員の推薦により選出し、支部評議員会において承認する。
- 2 推薦人は、支部評議員会予定日より 15 日以前に候補者の推薦書を支部事務局へ提出する。
- 3 有資格者でありながら推薦人が見当たらない場合は、支部長が推薦人となる事が出来る。
- 4 支部評議員の被推薦資格は、以下の 3 項をすべて満たすこととする。
  - 1) 65 歳以下で 7 年以上日本循環器学会会員であること
  - 2) 講師又は医長以上である者、または、本会学術集会において特別講演講師、教育講演講師、シンポジウム、パネルディスカッション、ファイヤーサイドカンファランスの演者を担当したことがあるもの
  - 3) 本支部地方会において過去 5 年間に 3 演題以上発表（共同演者でよい）していること。但し、基礎研究者については別途考慮する。

#### （地方会会長）

#### 第 8 条

- 1 支部規程第 8 条に定める地方会会長の選出方法は以下のとおりとする。
  - 1) 資格 : 教授または部長以上の本支部評議員
  - 2) 推薦方法 : 評議員による他薦または自薦に基づき、支部長が提案し支部役員会で選出の上、支部社員総会で承認する。
  - 3) 推薦時期 : 支部役員会開催予定日より 15 日以前に支部長に推薦書を送付する。
- 2 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
- 3 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
- 4 地方会会長は、地方会開催場所・日程の決定を行う。
- 5 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
- 6 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
- 7 地方会運営にあたる企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
- 8 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設する。口座

開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のもので利用出来ない体制を構築しなければならない。

- 9 お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部役員会、支部社員総会、関東甲信越地区理事会、支部評議員会)

#### 第9条

- 1 支部規程第9条に定める支部役員会は、年1回開催とする。
- 2 支部規程第13条に定める支部社員総会は、年1回開催とする。
- 3 関東甲信越地区理事による理事会は、年2回開催とする。
- 4 支部評議員会は、年3回開催とする

(支部事務局業務)

#### 第10条

- 1 支部規程第10条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
- 2 上記1項の方法以外に、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。(契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。)

(地方会)

#### 第11条

- 1 支部規程第11条1項に定める地方会について、本支部は毎年4回地方会を開催する。
- 2 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会関東甲信越地方会とする。
- 3 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。また、その抄録データを本会に提出する。
- 4 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部より、助成金90万円を地方会事務局に交付する。助成金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
- 5 地方会の参加費は要領に別途定めたとおりとするが、参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
- 6 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。
- 7 地方会における華やかな懇親会の開催を禁じる。
- 8 地方会当日の現金(参加費)の取扱いにおいて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
- 9 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
- 10 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会口座に振込し、次回以降の地方会補助金とする。その後、口座は解約する。
- 12 非会員の招請者、支部役員への待遇については要領に別途定めたとおりとするが、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。

- 13 地方会時の専門医単位登録について、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
- 14 地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
- 15 本支部地方会会長は、若手循環器専門医の育成を目的として、Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Award を設け、各賞最優秀演題発表者1名、優秀賞2名を顕彰する。実施要領は別途定めた通りとする。

#### (JCS-ITC 講習会)

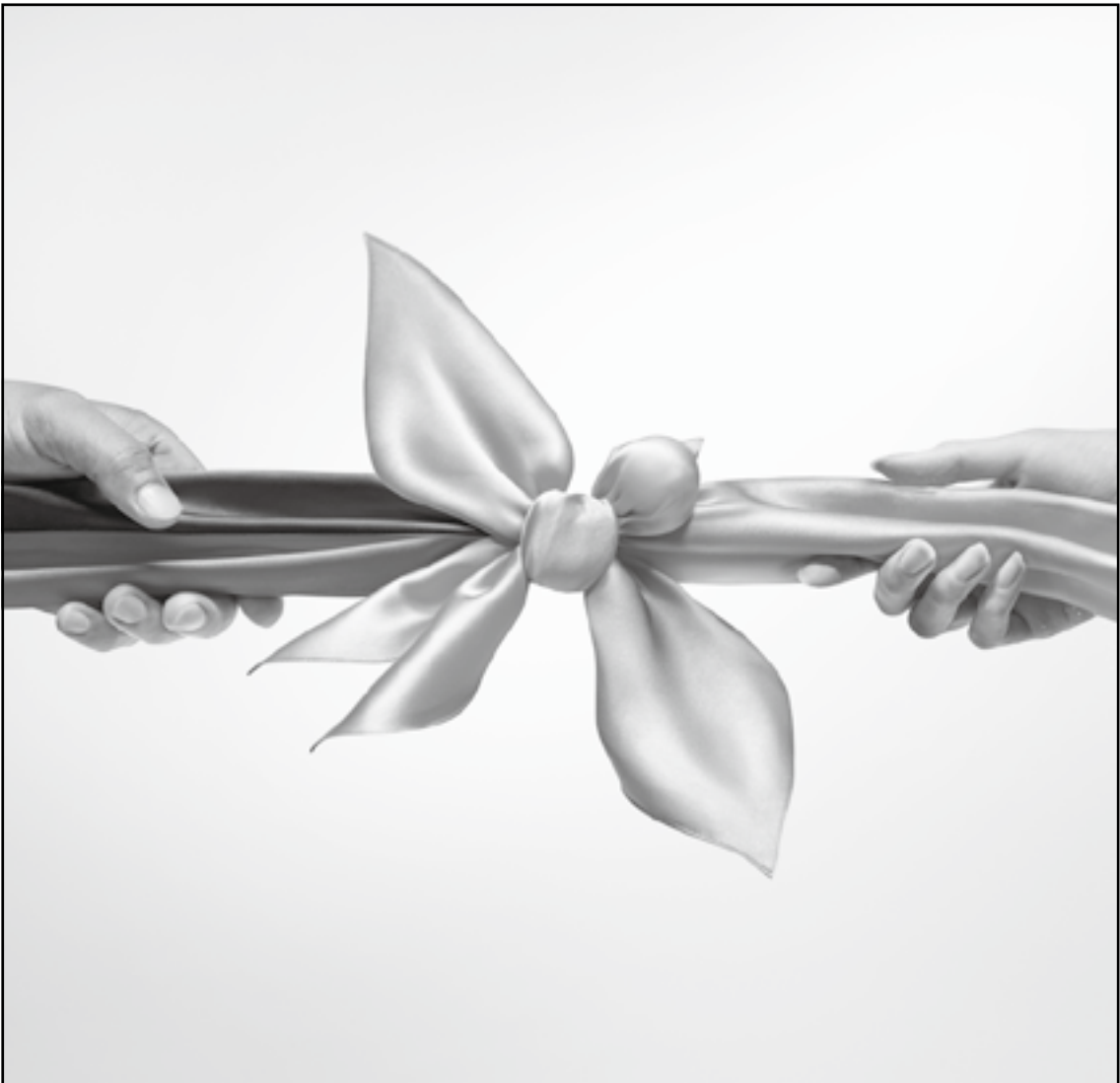
#### 第12条

- 1 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
- 2 JCS-ITC 講習会の事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）については支部事務局において実施する。ただし業務の円滑化を目的として、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。（契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。）
3. コース開催日程は、各支部ホームページに掲載することとする。
4. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。専用口座の取扱については、要領に別途定めたとおり慎重に行う。
5. コース開催時にコースディレクター等が立替精算をした場合は要領に別途定めたとおりに行い、不必要な経費支出は慎むこと。
6. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクを一覧化し（以下インストラクター・タスク一覧）、各自立替えしたコース開催地までの交通費を纏め、支部事務局（または外部委託している業者・個人）へ提出しなければならない。また、受講料収益と使用経費を一覧化し、コース毎の収支実績を作成し、合せて支部事務局へ提出する。
7. 各コースディレクターがコースに必要な資金を事前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 幹事のメール承認を要する。  
なお、ITC 幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
8. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛での領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
9. 支部事務局（または外部委託している業者・個人）は、提出されたインストラクター・タスク一覧、旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金額についてはJCS-ITC 規定に則る。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）
10. 支部事務局は、収入・経費を取纏め（漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認）の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。

#### 附則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

MEMO



選択的DPP-4阻害剤 / SGLT2阻害剤 配合剤  
—2型糖尿病治療剤—

# カナリア<sup>®</sup> 配合錠

CANALIA<sup>®</sup> COMBINATION TABLETS  
(テネリグリブチン臭化水素酸塩水和物 / カナグリフロジン水和物配合錠)

処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること) 薬価基準収載



効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。



製造販売元(資料請求先)  
田辺三菱製薬株式会社  
大阪市中央区道修町3-2-10



販売元(資料請求先)  
第一三共株式会社  
東京都中央区日本橋本町3-5-1

2017年9月作成



**JLL** Japan Lifeline



## … for Patient Comfort

治療に向き合う人々のもとへ、優れた医療機器をいち早く届け、  
生きる力の支えとなること。

それが私たち日本ライフラインの目指す姿です。

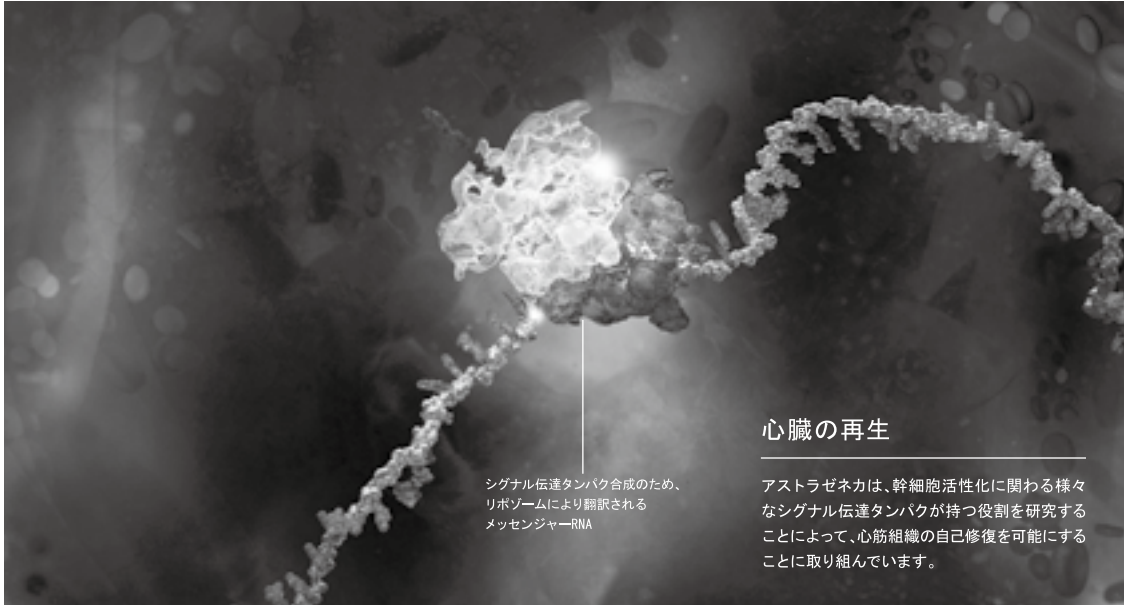
患者様にとって適切であるか。患者様にとって価値あるものか。

常に自らに問いかけながら、優れた医療機器の提供に取り組んでいきます。

**日本ライフライン株式会社**

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号 天王洲郵船ビル <http://www.jll.co.jp>

What science can do



心臓の再生

シグナル伝達タンパク合成のため、  
リボソームにより翻訳される  
メッセンジャーRNA

アストラゼネカは、幹細胞活性化に関わる様々なシグナル伝達タンパクを持つ役割を研究することによって、心筋組織の自己修復を可能にすることに取り組んでいます。

アストラゼネカ株式会社

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪タワーB  
www.astrazeneca.co.jp/



**V<sub>2</sub>-受容体拮抗剤**    劇薬、処方箋医薬品\*    薬価基準収載

**Samsca® サムスカ®**    錠 7.5mg  
錠 15mg    顆粒 1%  
トルバプタン製剤

顆粒1%  
新発売

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。  
\*注意—医師等の処方箋により使用すること

製造販売元    資料請求先  
**大塚製薬株式会社**    **大塚製薬株式会社 医薬情報センター**  
東京都千代田区神田司町2-9    〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー

Otsuka    大塚製薬株式会社

〈'17.05作成〉



ブレイクスルー・サイエンスに基づく  
バイオ医薬品を、日本の患者さんへ。

日本の医療ニーズに応えつづけるアステラス製薬と、  
世界のバイオ医療をリードするアムジェン。  
ふたつの企業のDNAを受け継ぎ、誕生したのが、  
私たちアステラス・アムジェン・バイオフーマです。

現在、「脂質異常症」「骨粗鬆症」「がん領域」の分野で  
新薬を開発するプロジェクトを進行中。  
この国のアンメット・メディカル・ニーズに応えるべく、  
革新的なバイオ医薬品をお届けしていきます。

www.aabp.co.jp

 **astellas** **AMGEN**  
**BioPharma**



経皮吸収型・ $\beta_1$ 遮断剤 薬価基準収載  
処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

**$\beta$  ビソナ<sup>®</sup> テープ<sup>°</sup> 4mg・8mg**  
(ビソプロロール・テープ剤) **Bisono<sup>®</sup> tape 4mg・8mg**



**トーアイヨー**  **astellas**  
製造販売 販売 **アステラス製薬**

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、  
製品添付文書をご参照ください。

2015年9月作成  
(BTB5204I)

〈資料請求先〉 トーアイヨー株式会社 本社 / 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-10-6



**MIRCERA**<sup>®</sup>  
epoetin beta pegol

持続型赤血球造血刺激因子製剤  
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品<sup>注)</sup>

薬価基準収載

# ミルセラ<sup>®</sup> 注シリンジ

25 $\mu$ g、50 $\mu$ g、75 $\mu$ g、  
100 $\mu$ g、150 $\mu$ g、200 $\mu$ g、250 $\mu$ g

MIRCERA<sup>®</sup> Injection Syringe  
25 $\mu$ g, 50 $\mu$ g, 75 $\mu$ g, 100 $\mu$ g, 150 $\mu$ g, 200 $\mu$ g, 250 $\mu$ g

エポエチンベータペゴル(遺伝子組換え)注

® F. Hoffman-La Roche社(スイス)登録商標

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること


※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、  
製品添付文書をご参照下さい。 <http://www.chugai-pharm.co.jp>

製造販売元



**中外製薬株式会社**  
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

(資料請求先) メディカルインフォメーション部  
TEL.0120-189706 FAX.0120-189705

 ロシュグループ

2016年3月作成



*Better Health, Brighter Future*



## タケダから、世界中の人々へ。 より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から治療・治癒にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに応えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

# PCSK9の発見は、期待へ。

“心血管イベントの発現リスクが高い”  
日本の高コレステロール血症患者さん\*に、  
新たなLDL-C低下療法。

\*日本で承認されたプララルエントの効能又は効果は「家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る。」です。

高コレステロール血症治療剤/  
完全ヒト型抗PCSK9モノクローナル抗体

# プララルエント®

皮下注75mg<sup>ペン</sup> / 皮下注150mg<sup>ペン</sup>

アリロクマブ(遺伝子組換え)製剤 ●薬価基準収載  
生物由来製品 処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

その他の使用上の注意については添付文書をご参照ください。

在宅  
自己注射が  
可能になりました

※自己投与には  
プララルエント®皮下注75mgペン  
又は150mgペンを用いること。

## 【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

**効能又は効果** 家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症  
ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA還元酵素阻害剤  
で効果不十分な場合に限る。

**<効能又は効果に関連する使用上の注意>** 1.適用の前に十分な診察及び検査を実施し、家族性高コレステロール血症又は高コレステロール血症であることを確認した上で本剤の適用を考慮すること。  
2.家族性高コレステロール血症以外の患者では、冠動脈疾患、非心原性脳梗塞、末梢動脈疾患、糖尿病、慢性腎臓病等の罹患又は既往歴等から、心血管イベントの発現リスクが高いことを確認し、本剤投与の要否を判断すること。【臨床成績】の項参照 3.家族性高コレステロール血症のうちホモ接合体については有効性及び安全性が確立していないので、本剤による治療の適否を特に慎重に判断し、本剤に対する反応が認められない場合には投与を中止すること。【2.重要な基本的注意】の項(2)参照

**用法及び用量** 通常、成人にはアリロクマブ(遺伝子組換え)として75mgを2週に1回皮下投与する。効果不十分な場合には1回150mgに増量できる。

**<用法及び用量に関連する使用上の注意>** 1.HMG-CoA還元酵素阻害剤と併用すること。【日本人における本剤単独投与での有効性及び安全性は確立していない。】2.アフェレーシスと併用する場合には、アフェレーシス施行後に本剤を投与すること。

**使用上の注意** 1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 重度の肝機能障害患者【使用経験がない。】[薬物動態]の項参照 2.重要な基本的注意 (1)本剤投与にあたっては、あらかじめ高コレステロール血症治

療の基本である食事療法を行い、更に運動療法、禁煙、他の虚血性心疾患のリスクファクター(糖尿病、高血圧症等)の軽減等も十分考慮すること。(2)投与中は血中脂質値を定期的に検査し、本剤に対する反応が認められない場合には投与を中止すること。(3)併用するHMG-CoA還元酵素阻害剤及び他の脂質異常症治療薬の添付文書における【使用上の注意】の禁忌、慎重投与、重要な基本的注意、重大な副作用等の記載を確認すること。(4)本剤の自己投与にあたっては、患者に投与方法及び安全な廃棄方法の指導を行うこと。1)自己投与にはプララルエント皮下注75mgペン又はプララルエント皮下注150mgペンを用いること。2)自己投与を実施するにあたっては、医師がその妥当性を慎重に検討した上で、患者に対して医師又は医療従事者が投与方法について十分な教育・訓練を実施すること。その後、患者自ら確実に投与できることを医師が確認した上で、医師の管理指導のもとで実施すること。3)自己投与の実施後、本剤による副作用が疑われる場合や自己投与の継続が困難な場合には、速やかに医療施設に連絡するよう指導し、直ちに自己投与を中止させるなど適切な処置を行うこと。4)本剤は1回使用の製剤である。使用后、再使用しないように患者に注意を促し、安全な廃棄方法について指導を徹底すること。5)添付されている取扱説明書を必ず読むよう指導すること。3.副作用 国内で実施された第Ⅱ相及び第Ⅲ相臨床試験において、本剤75mg又は150mgが投与された193例中33例(17.1%)に副作用が認められた。主な副作用は注射部位反応が22例(11.4%)であった。(承認時) (1)重大な副作用 重篤なアレルギー反応(頻度不明\*)…過敏症、貨幣状湿疹、蕁麻疹、過敏性血管炎等のアレルギー反応が認められ、重篤な症例も報告されている。観察を十分に行い、このような反応が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。  
注1)海外臨床試験で認められている副作用のため頻度不明

**承認条件** 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

★詳細は添付文書をご参照ください。

★添付文書の改訂にご留意ください。

★資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

サノフィとRegeneron社は、脂質管理の重要性の認知向上とLDLコレステロール治療におけるアンメットメディカルニーズの研究に寄与してまいります。

2017年9月作成 SAJUP.AL17.08.1821

製造販売: サノフィ株式会社

〒163-1488

東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

SANOFI